

第6回 青年の家跡地等整備推進会議 会議録

日時：令和2年1月27日（月）
 午前10時00分～11時40分
 場所：南畑公民館 2階会議室

出欠状況

座長					
新井(幸)	吉川	吉野	新井(利)	千種	斉木
○	○	○	欠	欠	○
佐藤	安藤	大熊	水口	斉藤	岩村
○	○	代) 小林	○	○	○
事務局	政策企画課長、協働推進課長、交通・管理課長、南畑公民館長、まちづくり推進課（課長、副課長、担当）				

内 容	<p>1 開 会</p> <p>2 あいさつ 新井（幸）座長</p> <p>3 意見交換事項（※進行：座長）</p> <p>（1） 青年の家跡地・びん沼自然公園の利活用に関する整備計画について 配布資料及びスライドに基づき、事務局より説明。</p> <p>【意見・質疑】</p> <p>参加者：公園が整備されれば、来園者が大幅に増加することが予想されるため、様々な面で不安がある。最初に、わんどの整備について、断念した理由は、台風等の洪水により土砂等が溜まってしまうことが要因にあると思うが、流されてきたゴミの処分費用についても検討しておくことが必要である。次に、バーベキューについて、私が知っている他の公園では、当初、予約制ではなく誰でも自由に出入りできるようにしていたら、施設の汚れ、ゴミの放置等が酷く、管理上大きな問題となった例がある。市では、施設の管理・利用形態（予約制、食材の持ち込み、用具の貸し出し等）をどのように考えているのか。次に、パークゴルフについて、公園面積を占める割合が大きく、これでは、もはや“びん沼自然公園”</p>
-----	--

ではなく、“びん沼パークゴルフ場”というイメージを受ける。デンマーク発祥のバーンゴルフであれば、パークゴルフの四分の一程度の面積で済むため、検討してみると良いと思う。また、野鳥の宝庫であるこの公園を整備することは、環境破壊に繋がりにかぬないという危惧もある。最後に、メイン施設について、公共的な用途での利用とするのか、又は商業的な用途での利用とするのか、施設内スペースをどのような貸し方とするのかに関してルール作りをする必要があると思う。

事務局：台風等自然災害の影響については、昨年の台風15号及び19号の際、かなりの浸水あったにも関わらず、水が引いた後に土砂の堆積はあまりなかったこともあり、この場所においてパークゴルフは可能という判断に至った。また、パークゴルフは、コースが全36ホールあることから、普通にプレーしながらでもかなりの運動量となるため、遊びながら健康づくりが可能であることも選定の一つの理由である。次に、バーベキューを含めた維持管理については、指定管理者に委ねる予定であり、運用等の詳細は今後の検討となる。次に、環境についてのご指摘は、先日、生態保護協会の支部にもお話をさせていただいたが、残る自然環境に配慮しながら整備を進める。また、施設の貸し方については、地元の方に広く開放しながら、商業用途も図っていけるよう、今後、一定のルールを決めていきたいと考えている。

参加者：先程、バーベキューをすると施設が汚れるという話があったが、どのような様子であったのか。

参加者：予約制でないバーベキュー場では、お酒を飲んで騒いだり、ゴミを放置していく人が出てくるということである。追加で意見させていただくと、個人的な感想ではあるが、狭い区域に色々な施設が入る計画となっているので、公園のキャパシティに問題ないのかという心配もある。また、“クアオルト（治療地・保養地）”という考え方もあって、公園には健康維持のための場所が必要である。

参加者：わんどの計画がなくなったのは、残念である。公園整備のために調整池である場所に盛土をすることによって、本来の機能が薄れることが心配である。また、駐車場を単純に増設するという計画は、交通渋滞を招くことになるため、交通アクセスの充実が必要だと思う。

事務局：盛土については、敷地外からではなく川の中の土を利用する。芝を整備

する関係上、ある程度の客土が必要になる。また、駐車場については、施設規模・集客を考慮し、増設の計画とさせていただいているが、ご意見にあった、公共交通機関等の交通アクセスの面に関しては、今後の検討課題とさせていただきたい。

参加者：駐車場については、周辺での釣り客による駐車車両への対応も含めて検討してほしい。

参加者：治水橋の脇にあるパークゴルフ場は、目立つ場所にあるにも関わらず、あまり利用者がいない印象がある。びん沼自然公園は、少し奥まった場所にあるので、重ねてになるが、交通アクセスの充実が必要だと感じる。

参加者：パークゴルフは、事前に道具を準備しておく必要があるスポーツなので、すぐに一般の方に浸透するものなのか不安はある。しかしながら、スポーツ環境が少し弱い富士見市にとっては良い計画だと思う。

参加者：幼稚園の先生の視点で発言させていただくと、園児を連れて遊びに行くのは難しいという印象である。大型遊具は園児全員では遊べないので、遊具を設置するのであれば、小さいものをたくさん設置していただきたい。他には近くにお弁当を食べさせられるスペースがあれば良いと感じる。大型バスが入れるのかどうかも気になる点である。また、メイン施設については、もっと商業的な用途になると想像していたが、公共施設としての要素が強いように感じる。公民館等に似たような用途の施設を敢えてこの場所に作る意味があるのか疑問がある。話は別だが、周辺では、サイクリングが盛んであるため、サイクリング途中で気軽に立ち寄れる場所に出来ると良いと感じた。

事務局：パークゴルフについては、今後、指定管理者の持つ民間のノウハウを活かしながら、徐々に広めていければと考えている。また、大型遊具については、シンボルやランドマークとなる要素を兼ね備えたものという観点から大型遊具を採用している。

参加者：交通アクセスの件で、公園のメインとなる入口は何処になるのか。看板等を設置する必要も出てくると思われる。

事務局：看板をどの場所に設置し、どのように人を誘導するのかといった交通アクセスの面については、今後、検討・調整を図っていきたい。

参加者：県のはつらつプロジェクトの一環で、びん沼自然公園の事業を進めているが、県としての事業は令和2年度で完了となる。今回は、施設等の利用開始時期について伺いたい。デッキの利用とパークゴルフの開始時期はいつ頃を予定しているのか。

事務局：デッキの利用は、センターハウスと合わせて供用予定であり、センターハウス完成後、早めに供用開始したいと考えている。また、パークゴルフは、令和3年度末の予定である。しかしながら、公園施設全体について、一部施設でのプレ・オープンを実施するのか、または、すべての施設の完成後、全体でのオープンとするのかは、今後、検討・調整が必要である。

参加者：盛土に関しては、現在の、平均水位と比べどの程度の高さとなるのか。

事務局：現状の葦原の高さは、高いところで標高6m程あるため、その部分の土を削って運搬し、盛土する予定である。パークゴルフ場は、平均水位から1m程上がり、土を削った側についても、平均水位より低くなることはない。

参加者：葦原部分の土壌は柔らかく心配である。

事務局：以前、川越県土整備事務所による工事において、現場に重機が入ったことがあり、一定の地盤強度は確保されていると思われる。

参加者：葦原に生息するアライグマやハクビシンの被害が後を絶たない。以前から要望しているが、2mの地盤掘削について、強く要望したい。

(2) 次回以降の会議について

設計の詳細が確定後に、内容の報告をさせていただく予定であり、開催時期については、令和2年の秋頃を予定している。

4 閉 会